

第 2 回定例教育委員会 会議録

開催月日 平成29年4月26日（水）

開催時間 午前 10 時 01 分から 午前 10 時 20 分まで

開催場所 教育委員会室

出席委員 教育長 守屋 守
教育長職務代理者 飯室 元邦
教育長職務代理者 和田 一枝
委員 野田 清紀、武者 稚枝子、三塚 憲二

出席職員 教育次長 若林 一紀
教育監 渡井 渡
教育監 奥田 正治
学力向上対策監 佐野 修
次長（総務課長） 末木 憲生
福利給与課長 諏訪 桂一
学校施設課長 望月 啓治
義務教育課長 嶋崎 修
高校教育課長 手島 俊樹
高校改革・特別支援教育課長 成島 春仁
社会教育課長 岩下 清彦
スポーツ健康課長 前島 斉
学術文化財課長 百瀬 友輝
国体推進室長 三井 勉
企画調整主幹 藤原 鉄也
総務課総括課長補佐 本田 晴彦
政策企画監（総務課課長補佐） 武井 俊人
総務課課長補佐 若月 衛
総務課課長補佐 望月 勝一
義務教育課主幹・管理主事 小田切 利幸
総務課副主幹 保垣 利恵

傍聴人 0 名

報道 2 名

会議要旨

〔 教育長開会宣言 〕

1 議 案 な し

2 報告事項 な し

3 その他報告

(3) 平成30年度採用山梨県公立学校教員選考検査実施要項について
〔説明〕 義務教育課

野田委員 要項の告知方法はどうなっているのか。

嶋崎課長 県関係機関での配布や大学へ赴いての周知がある。

野田委員 点数は良いが、適性検査で不可の人がいた。それらについて本人に通知しているのか。

小田切主幹・ 管理主事	本人からの開示請求があれば開示している。
野田委員	落とされた理由を本人が知らなければ開示請求しないのではないかと。いつまで経っても受検し続けることになる。
守屋教育長	適性検査の内容は毎年変わるのか。
小田切主幹・ 管理主事	その年の状況によって内容は変わることはある。
野田委員	指導教官が本人への指導する際に、その情報は必要になるのではないかと。
守屋教育長	現実的に、500人程度受検する中で、一人ひとりへ対応することは難しい。開示請求制度があるので、本人にそれを利用してもらう。本人が開示請求し、何処が悪いかが調べる制度ができています。
野田委員	適性は本人の努力により変わるのか。
嶋崎課長	質問に答える形になるので、考え方を考えることは不可能ではない。
武者委員	適性検査には心理検査もあり、攻撃的な性格や逸脱している傾向等判定されることがある。それを本人に伝えることは良いことかもしれないが、レッテル貼りにならぬように、難しいと思う。
三塚委員	追加されたところに「主体的に学び続ける教師」とあるが、「主体的に学ぶ」とは自分が勉強していくということになり、それを誰が評価するのか。「主体的に学ぶ」のであれば、例えば、研修制度を作り受講させるなど具体化するべきで、それを構築していくべきではないかと。
守屋教育長	これらの「めざす教師像」を示し続けることで、大学・学生に「主体的に学ぶとは」と考えさせることができ、考え方を考えさせることもできるのではないかと。面接においてもその旨の質問を行い、教員を目指す者に考えさせる。それを続けることで入ってくる教員の意識を変えていきたい。今年限りでできることではないので、中期的な側面を考えていきたい。
三塚委員	スローガンとしては良くわかり、モチベーションを持たせることは重要だと思うが、ある程度のノルマは必要だと思う。
守屋教育長	理論的な話になってしまうので、具体的に受検生になにを考えさせるのかを検討していきたい。
武者委員	要項に「主体的に学び続ける教師」と文言として載せるだけでなく、その具体例を示しても良いのではないかと。
守屋教育長	英検準1級を持たなくても受検できるが、文科省も取得を推奨しているので、それらの具体例になるのではないかと。情報科や工業科の教員は様々な資格を有しているが、自分がより質の高い教育を生徒に行うために自らが考えて、例えば資格取得していくように検討していきたい。
飯室委員	加点制度の拡大は良いこと。毎年項目を見なおし、かつ加えて欲しい。
和田委員	小中の免許を両方持っているとうかがわれるとあったが、小中の連携や小中一貫教育等を見据え、両方の免許を持つ教員についてどう考えていくのか。
嶋崎課長	学習の連続性や発達への連続の見守りのこともあるので、小中の免許を持つことを加点対象とした。このような教員は免許を取ろうとする意欲があったり、幅広い知識、技能の習得の意欲があるとして「主体的に学び続ける教師」にも合致し、また、小中通した指導ができると考えている。

- 和田委員 小学校で英語の免許があると加点されるが、英語が小学校で指導されるようになることからか。
- 嶋崎課長 小学校で英語嫌いになっても困るので、専門的に英語教育を学んだ者が英語を教えることで、中高での英語教育に繋がりたいと考えている。
- 和田委員 優れた英語の能力を持つ者が専科で英語を担当するということも考えているのか。
- 嶋崎課長 指定校において取組をしているが、その成果を踏まえながら検討していくところである。

【 了 知 】

〔 教育長閉会宣言 〕

以 上